

2022.3.16

エミリアーノ・ポンツィ:

第 60 回ミラノサローネのポスターのクリエイティビティについて語り 80 年代のポスターを公開！

60年代と70年代のポスターを発表後、数々の受賞歴のあるイタリアのイラストレーターが、ミラノサローネ 80年代のために制作されたポスターを公開し、作品のコンセプト、物語、言語について語りました。“Join the design wave”というコピーには、「波のように力強く、そして広く、デザインを取り巻くすべての人々を団結させよう」というエールが込められています。

エミリアーノ・ポンツィ(Emiliano Ponzi)は、サローネ・デル・モービレ・ミラノ(以下、ミラノサローネ)の様々な年代のイラストレーションを担当しています。その独創的で個性的な特性は、「伝える」と同時に「伝わる」60年。1961年から今日に至るまでの歴史が10年毎に区切られ、サローネとミラノの街、デザインの進化とイタリアの慣習の変遷を感じ取れる6枚のポスターが見る者を引き込み魅了します。この広告キャンペーンはエピソードで構成されており、サローネが単なる展示会ではなく、ミラノを紛れもないデザインの都にした価値観とスキルの代弁者であることを見事に解説しています。

エミリアーノ・ポンツィは、作品の出発点として、純粹に情報提供や教訓的な側面を避け、情緒的で横断的なアプローチやビジョンを通じてイベントを祝い、その考察を伝えることにしました。彼の最初の創作活動は、6つのポスターをつなぐ共通項を見つけることでした。テーマレベルではなく、文体や言語レベルで、ひとつの調和のとれた「コーパス」として認識されるような要素をいくつか見つけることでした。

そのひとつは、ミラノサローネを象徴する赤と黒に、白とそのグラデーションを加えた色調です。もうひとつは、より独創的で、各イラストに「60」という数字を入れたことです。このように、サローネの歴史はそれぞれの重要な一部となり、美的なレベルにおいて、イベントが長年にわたって発揮してきた驚きを生み出しています。ミラノのランドマークであるヴェラスカ塔、ドゥオモ、スカラ座、フィエラ(見本市会場)、そして象徴的な路面電車を加えることで、スタイルの一貫性を確保することもできました。最後に、それぞれのドローイングから醸し出される和やかな雰囲気と情熱は、コンセプトと物語を際立たせ、更に重要なのは、見る人がイラストレーションを感じ取るのを助けることです。



エミリアーノ・ボンツィはクリエイティビティについて次のように語っています：

「最初のポスターは、1960年代のミラノの室内を描いたもので、そのため白黒で、ヴェラスカ塔にはほんの少し赤が入っています。2つ目は、街が動いている様子や70年代のヒッピーの雰囲気が描かれています。デザイン、ファッション、パーティーなど、80年代はポップな時代でしたから、このイラストは赤の勝利であり、グレース・ジョーンズへのトリビュートです。1990年代は、スカラ座のコンサートやバレエ、サローネとの関係からインスピレーションを受け、2000年代の最初の10年間は、マッシミリアーノ・フクサスが設計したフィエラの空間に焦点を当てました。サステナビリティとインクルーシブという価値観が、今日のサローネを象徴していることを伝えたかったのです」。

ミラノサローネの従来のコミュニケーションに「破壊的」な要素を加えたのが、**拡張現実**を利用したイラストと鑑賞者の新たな関係性とインタラクションです。ミラノを拠点にモーショングラフィックス、2D/3D アニメーション、ディレクションを専門とするクリエイティブスタジオ **Alkanoids** とのコラボレーションにより、新たにデジタル要素が加わりました。各ポスターのQRコードをスマートフォンでフレーミングすると、イラストが動き出し、静的で2次元の次元を離れ、現実へと移行していくのです。

1960年代のイラストでは、ヴェラスカ塔のイメージから蝶がその赤を盗んで現れ、女性像の足から飛び降りる猫と戯れ、再びミラノのランドマークに朱色の色彩を与えているのである。1970年代では、車や路面電車が観客の方へ移動し、ギターを手に明らかにフラワー・チャイルド(ヒッピー)と思われるカップルがトラム(路面電車)に飛び乗り、花を撒き、サプライズ効果をもたらしています。80年代のポスターでは、ドウオーモを見下ろすテラスで行われるファッション・パーティーの賑わいが浮かび上がります。主人公がカクテルを手にし、飲み干した途端、音楽が止まり、再びグラスが満たされるまで赤い雲が渦を巻き、ショッキングレッドの色彩が燃え上がりパーティーが再開されるのです。最後の3コマのアニメーションは、これから公開される予定です。

“Join the design wave” という快活でポジティブなメッセージは、従来のサローネのコミュニケーションとは異なり、驚きを生み出す力を持ち、皮肉と歓楽と共に、デザインと、ミラノの街と、ミラノサローネを華やかに祝福する全ての人々を呼び込むものです。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it